

として、毎学期に行うアンケート調査による実態の把握、教育相談活動・学校職員の研修等、学校支援体制の充実を第一に教育体制を整えています。

Q 子供たちのSOSを見逃してしまいう要因の一つに先生方の多忙化が考えられるかどうか。

A 教育長 本市では、いじめ発見の割合が一番多いのは教員でした。そのようなことから、多忙化の解消は困難な問題であり、これはという解消策はないことが現実ではあります。教育委員会事務局としてバックアップ体制を整えていきたいと考えています。

Q 5月22日付で「通学時における児童生徒の安全対策を求める要望書」を市長並びに教育長に提出させていただいたが、通学路の総点検に関する進捗状況はどうか。

A 教育部長 関係機関と各学校等が連携をとり通学路の総点検を実施。その結果、国道・県

道19カ所、市道28カ所の危険箇所が出されました。今後も継続的に危険箇所の点検を行い、安全確保に迅速に対応できるように努めたいと考えています。

Q 防災教育の実施についてはどうか。

A 教育部長 昨年度は陸岡小学校が地域との連携を深める防災教育の公開授業を実施。本年度は他校での実践にも参考になるという形で、防災教育推進校として蓮沼小学校を指定し、9月6日に保護者も参加した公開授業とミニ集会を実施しました。

Q こども議会の開催について。

A 教育長 この取り組みによる効果が大きければ、大変大きな意義あることだと考えています。実施に当たっては内容・中身の濃いものにしたと考えています。

Q 23年度決算に計上された資産除去債務の取り扱いについて。

A 市長 監査法人トーマツの技術指導に基づいて計上しましたが、評価委員の先生からは必ずやらない、むしろ間違っているだろうとの意見が出されました。解釈が違いますので、さんむ医療センターと市で協議の上、総務省に公式に問い合わせをしています。



市川 陽子 議員

公明党 関連質問

Q 教育行政について

A 公明党は、20年前に子供目線の高さから見た通学路安全総点検運動として、提唱している。合併から6年目になるが交通安全計画がないと聞いている。今後の予定はどうか。

A 市民部長 警察及び交通安全協会の意見をよく反映した計画書の作成を心がけたいと思います。

Q 緊急の通学路総点検の結果を、点検のための点検に終わらないよう、目に見える諸対策の迅速かつ計画的な実施を図るべきではないか。

A 教育長 通学路の安全点検も防災教育、安全教育に組み込まれると考え、市教委は、公明党の要望書や県教委からの通知を踏まえ、初めて通学路における緊急合同点検実施計画を作成し、関係諸機関と連携を図り実施しました。大変大きな前進にとらえ、今後情報も共有し、常時、また継続的に努力していきます。

Q 自動車運転手に注意喚起を一層促すために、一定の距離で、通学路の道路幅全体をグリーンカラーのスクールゾーン標示をしてはどうか。

A 教育部長 教育委員会として、何の規制もかからず実現できるか確認をします。

Q 成東小学校へ登校する際、板及び愛宕台、富士見台の児童生徒が、グラウンドの中を通っているが、大雨の際、水はけが悪いので環境整備を行ってはどうか。

A 教育部長 排水対策を考えています。



保育園で行われたベコちゃんクラブ(幼児交通安全教室)

Q 緊急合同総点検を推進した、安全対策の推進体制の規定を山武市安全で安心なまちづくり推進条例の中に盛り込んではどうか。

A 市長 技術的にどうか検討します。

Q 市の将来を背負う子供たちが、本当に安心して通学できる環境を確保するための予算計上についてはどう考えるか。

A 市長 重要性ということを十分に受けとめ、行政を進めます。

Q 合併特例債を活用して、市全体の幼保の施設の改修計画をしてはと質問した。今後の改修計画はできているか。

A 保健福祉部長 今後、進を基本と位置づけ、山武市のまちづくり計画において、施設整備を推進することが、適切であると判断しています。



本山 英子 議員

公明党 関連質問